

伝統継承

帆引き船の保全と帆引き網漁



大きな帆をふくらませて、悠々と湖面を走る帆引き船。この船が初めて霞ヶ浦に浮かんだのは、明治13年のことでした。考案したのは、かすみがうら市坂(二ノ宮)に生まれた折本良平氏が46歳の時でした。

彼が発明した帆引き網漁は、自然の風を利用した画期的な漁法でした。彼は多くの漁師たちに、その操業技術を伝え、沿岸漁民の生活安定に大きく貢献しました。

昭和40年ごろからトロール船が主流となり、帆引き船はまもなく姿を消しましたが、霞ヶ浦漁業の歴史を知る上で極めて重要な文化遺産であることから、昭和46年に観光帆引き船として復活しました。雄大な霞ヶ浦に白い帆を上げて優雅に走る帆引き船は、随伴船から眺める多くの人を魅了しています。

そんな帆引き船の保全と帆引き網漁の継承に地域ぐるみで取り組んでいます。

図観光商工課(霞ヶ浦庁舎)

後継者の対策が重要な課題

伝 統文化である帆引き船の保全と知識を持つ人々や組織が存在し、表現・伝承していかなければ受け継がれていきません。現在、帆引き船の操船している地元漁師の高齢化や継承者不足により、貴重な「伝統文化」が消滅の危機にあり、次代を担う若い後継者への技能の継承が重要な課題になっています。

帆引き船継承部の立ち上げ

帆 引き船は、霞ヶ浦の風物詩として長年にわたり親しまれ、観光操業においても多くの関心を集めている極めて重要な観光資源です。その帆引き船を守ろうと、地元の養殖業や水産加工業の若手を中心に有志たちが集まり「帆引き船継承部」を立ち上げ、地域ぐるみで帆引き船を継承していきこうと動き出しました。

立 ち上げ元年の平成25年度は、現役の帆引き船操船者の漁師の方に、漁具の説明や操船の指導を受ける講習会を行っています。

会員募集 帆引き船継承部

継承部では、帆引き船の保全と帆引き網漁を継承する意欲のある有志を随時募集しています。興味のある方は、観光商工課まで連絡をお願いいたします。



メンバー(敬称略)

櫻井隆士、柳沢俊雄、貝塚理、石橋雄一、狩野平左衛門岳也、樽見誠司、宇都木正浩、岡本稔弘、鈴木英之、山野英明、貝塚康博、大久保光謙

特別企画 メモリアル101

帆引き船の歴史や活用について、皆さんで語り楽しみましょう。参加自由ですので、お気軽にお越しください。

- ◎期日 11月23日(土)
- ◎会場 農村環境改善センター
- ◎内容 午前10時～正午▽帆引き船と帆引き網漁を語る集い

午後1時半～3時▽記念講演「霞ヶ浦漁業の歴史と発展」



帆引き船発祥の地 「かすみがうら市」としていまできること

金子 私は、義務教育が終わった16歳で漁師になりましたので、トロール船が主流になるまでの20年ぐらい、霞ヶ浦で漁をするために帆引き船に乗っていました。

櫻井 私たちの世代では、帆引き船は漁をするものというより、「観光帆引き船」のイメージが強いですが、金子さんたちにとっては、どのようなものだったのですか？

金子 漁師にとって帆引き船は、家族を養って生活していくために、霞ヶ浦で漁をする道具のひとつでした。

櫻井 強風の中では、帆を張る帆引き船は危なかったのではないですか？

金子 強風だからと漁に出ない人もいました。張る帆を少しにするなど工夫すれば大丈夫なんですよ。

櫻井 帆引き船を操船する技術は誰から教わったのですか？

金子 兄貴や先輩たちから教わったのですが、初めのうちはうまくできなくて、怒られたり、ひっぱたかれたりし



現役操船者 金子充志さん

ました。たんこぶもよくできたね。ただ、教科書なんかがあるわけじゃないし、一から十まで教わったというよりは、一緒に船に乗り、兄貴や先輩の動きを見て技術を盗んだ感じですね。

櫻井 帆引き船に限らず、漁師ってそういうもんですね。

金子 継承部として、今後どのようにしていきたいのですか？

櫻井 現役の操船者の船長さんたちは、大先輩であり、生きる教科書って感じの存在です。帆引き船に関する技術や知識を、その大先輩から教わることや技術を盗むことを、今するべきことだと思っていますので、今後ともよろしくお願いします。

金子 口で説明できないことも多々あるので、それは見て触って覚えてほしいと思います。

櫻井 継承部会の一員として、この帆引き船で「帆引き船発祥の地」かすみがうら市のまちおこしができたらいいなと考えています。



継承部会 部長 櫻井隆士さん